

# 平成27年度 学校評価シート

学校名： 和歌山県立桐蔭高等学校

学校長名： 岸田 正幸 印

目指す学校像 育てたい生徒像	自ら人生を切り拓く人を育てる
-------------------	----------------

本年度の重点目標 (学校の課題に即し、 精選した上で、具体的かつ明確に記入する)	1 主体的な学習姿勢の育成と教員の更なる指導力向上に取り組む
	2 生徒に進路目標を実現させるための組織的かつ系統的な取組を行う
	3 自主的・自律的な生活習慣・学習習慣を確立させる
	4 中高連携による一貫教育の具体的方策の提示を行う

達成度	A	十分に達成した (80%以上)
	B	概ね達成した (60%以上)
	C	あまり十分でない (40%以上)
	D	不十分である (40%未満)

学校評価の結果と改善方策の公表の方法
保護者に対して自己評価及び学校関係者評価の結果を知らせるとともに、本校ホームページにおいても広く公表する。

(注) 1 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。 2 番号欄には、重点目標の番号を記入する。 3 評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。  
4 年度評価は、年度末(3月)に実施した結果を記載する。 5 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

自 己 評 価					年 度 評 価 ( 2 月 1 5 日 現 在 )		
重 点 目 標					年 度 評 価 ( 2 月 1 5 日 現 在 )		
番号	現状と課題	評価項目	具体的取組	評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善方策
1	生徒の学力をより高いレベルまで伸ばすことが現在の課題である。FD会議を軸に、「わかる授業」から「面白い授業」へと更なる授業の質の向上をはかり、生徒に学習意欲や目的意識を持たせることで、学習時間を増加させるとともに、主体的な学習態度の育成を目指す取組が必要である。	主体的な学習態度を育成するために、生徒に計画的に課題を提示し、授業内容の改善に取り組んでいるか。 生徒の実態把握に努め、きめ細かく継続的な指導を行っているか。また、学習指導方法の改善に取り組んでいるか。	・研究授業・公開授業の実施 ・教員間における学習指導法の共有による授業力の向上 ・進学補習や基礎補習の充実  ・学年・教科等の連携による家庭学習時間確保の指導 ・桐蔭STの分析および対策  ・家庭学習の指導を踏まえた計画的な課題提示のための教科間の情報交換協議	・研究授業・公開授業の実施回数 ・校内研修・現職教育の実施回数 ・各種補習の総時間数  ・実態調査にみられる家庭学習2時間未満の生徒の割合  ・学年会での情報交換・協議の実施	研究授業や公開授業については、FD会議を軸にして継続的に行われた。夏期補習については、1,2年は国体の関係で実施できなかった。3年の補習に関しては国数英補習を独立申込にしたため、登録数は減少したが出席率は向上した。家庭学習時間2時間未満の生徒については近年大きな変化は見られていない。学年会で様々な情報交換を行っているが、協議の面では不十分な点が残る。	B	次年度も授業改善を目的とした桐蔭FDや桐蔭STが継続されるので、それらの委員会と教務が連携をとりながら研究授業を実施していく必要がある。また3年生の通常補習についてはクラブの状況も考え、実施時期の検討が必要である。家庭学習時間の増加のためには学校・生徒・家庭の連携はもちろん、いかに教師が動機付けをし、主体的な学習態度を育成できるかが今後の課題である。同時に計画的な課題提示が出来ているか検証していく必要がある。
2	生徒の多くは、難関大学進学を目指し、将来を見据えた高い志を持って入学してくる。この生徒たちの気持ちを継続させて本気で取り組む姿勢を集団として育てる取組が必要である。また、そのための基盤となる能力や態度を育てることを通してキャリア発達を促し、一人一人の進路希望の実現と将来に向けた組織的かつ系統的なキャリア教育が必要である。	生徒のキャリア発達を促し、自らの進路実現に向けて意欲的かつ自律的に学習できるように、具体的な取組が系統立てて展開されているか。 社会に貢献できる人材育成のために、基礎的・汎用的能力を育成するための指導を組織的にしているか。	・研究開発のために教育課程に設定された「キャリア桐の葉IV・V」の各プログラムの実施 ・桐蔭リーダー塾や桐蔭総合大学等の体験学習の機会の有効活用  ・「進路だより」による継続的な生徒への働きかけ ・進路講演会、オープンキャンパス、桐蔭総合大学等への積極的な参加の啓発  ・3年間の進路計画に沿った、日常的な面談を通じたキャリアカウンセリングの実施  ・教員の指導力強化と生徒情報の共有のための現職教育、進路検討会や成績分析会議の実施	・「キャリア教育・進路に関する調査」、「付けたい力30」、「学びの意識調査」等の各種調査を用いた分析・評価  ・開催回数や参加人数及び生徒への事後アンケート等による調査 ・「進路だより」の発行時期と内容  ・生徒の進路選択に対する意欲や進路意識の変容  ・実施回数と教員への事後調査	研究開発事業については計画通りに実施できた。1月の文部科学省研究開発学校研究協議会でも高い評価をもらっている。センター試験での平均点が文系理系とも上がり、難関大への出願者数も若干多くなった。学校全体で学年に関係なくより高いレベルの大学を目指して一人一人が頑張っていく雰囲気は出来つつある。教員集団もFDを一つの契機に授業に対する改善の意識を持っている。模試の実施・結果分析・個別面談はサイクルとして確立されているが学年間の情報共有が希薄である。進路指導部を中心とした情報発信の方法を改善する必要がある。	A	次年度は研究開発最終年度となるので、本校としての総括を行うとともに、他校でも活用できる汎用性という観点でも整理しなければならぬ。 より高いレベルの大学を目指すという学校全体の意識を毎日の授業に映し出していくことが課題である。そのために、FDを契機とする授業改善に継続的に取り組み、アクティブラーニングの手法も意識して取り入れながら主体的な生徒の学びを追求していきたい。生徒・保護者・教員への情報発信の有効な方法を試行錯誤しながら作り上げていきたい。模試結果の分析を学年全体の指導にも活かせるような取り組みを追求したい。
3	生徒は概ね規律ある学校生活を営むことができている。遅刻、身だしなみ等において課題を残す生徒もいる。自らの課題を見据えて学習活動、クラブ活動、その他学校生活全般に自主的・自律的に取り組める生徒の集団をはぐくまねばならない。そのためにも生徒が安心して過ごせる学校環境の維持と、いっそうの充実を図る必要がある。	生徒が自律的に行動する態度を身に付け自己管理能力を高めるための重点項目としての、 ・遅刻指導と下校指導 ・交通安全指導 ・身だしなみ指導 ・相談体制の確立が適正に行われているかどうか。	・年間を通した毎朝の校門指導の実施 ・19:00完全下校制度の継続実施  ・交通規則の遵守、交通マナーアップ・安全意識と公共心の育成  ・正しい服装・髪型についてアセンブリ等あらゆる機会を通じた啓発  ・教育相談体制の充実	・通年遅刻者数の経年変化 ・遅刻者0日の増減 ・校内巡視の件数  ・PTAと連携した自転車通学に係る交通指導 ・交通事故の発生件数とその把握、対応  ・年3回の学年別身だしなみアセンブリ実施  ・カウンセリング利用者数 ・ケース会議の実施状況	機会を捉えての生徒への働きかけができています。遅刻は全体では微減傾向にあり、6回目指導以上は7名と昨年に比べて半減した。19:00完全下校は昨年度と大きくは変わっておらず課題が残されている。交通事故報告数は昨年並み(8件)で全て自転車であった。その際の通報・応対等を生徒の対応力には向上が見られる。生徒の身だしなみは概ね可と考えるが、課題を残す生徒もいる。外部からのルール・マナー違反の指摘は本年度はほとんどなかった。教育相談のケース会議は必要に応じて随時実施できた。早期対応への体制が一定整ってきている。カウンセリングは回数は昨年度と大差なく、一定の成果があると考えます。	B	遅刻指導・交通安全指導・身だしなみ指導は、本年の成果を踏まえて継続し全職員による指導体制の確立を図る。また駐輪場等の校内施設の適正利用や清掃活動の指導を通してマナー・ルールを一層大切にできるよう働きかける。 生活指導部は従来の取り組みにこだわらず、現状に応じた体制見直しを行う。また生徒に関しては初期、初動の対応の重要性を全職員と共に認識し、情報の獲得管理と提供に務める。 特別活動部や学年団との連携については定期的に情報交換を企てるなどの具体的な手立てを講じていく必要がある。
4	中高一貫委員会において、具体的な取組に関して検討する機会が減少している。FD会議を通して、交流の在り方を模索する必要がある。	中高一貫の具体的な検討が進んだか。 2年次からの内進・外進生の混合クラスによる成果と課題が検証ができたか。	・FD会議を活用して、中高の教職員による情報交換や意見交換  ・次年度に向けた成果と課題についてFD会議での検討	・年間3回以上の情報意見交換会の実施  ・FD会議での検討内容	FD会議を軸として、中学・高校において研究テーマを設定し、それに基づいた公開授業・課題報告等を通じ、中学・高校間の認識を共有する機会が増えた。混合クラスの検証については今後の課題である。	B	FD会議を軸として、相互の授業参観等を通じての交流を継続する。中学生と高校生の交流については、行事等の機会の活用を検討していきたい。

学校関係者評価
平成28年2月15日 実施
学校関係者からの意見・要望・評価等
<p>教職員自己評価、生徒評価、保護者評価の結果を受けて、学校評議員(兼学校関係者評価委員)の皆様から頂いたご意見等をまとめると、概ね次のとおりである。</p> <p>(1) キャリア教育の充実、桐蔭スタンダードテストの作成、桐蔭FD会議の開催、HPの充実、インフォメーションディスプレイの記事内容等、具体的な取組を校長のリーダーシップの下、チーム桐蔭として組織的に進めていることが伝わってくる。</p> <p>(2) 授業を真剣に受けている姿がよかった。質の高い授業を今後も続けていってほしい。また、受験だけにとらわれるのではなく、学ぶことの本質を生徒自らがかみ取っていくような授業を作りあげ、文武両道の精神を大事にしてほしい。</p> <p>(3) 大学や社会に進んでからも自分のペースを乱さずに頑張っていける力を今後も身に付けさせてほしい。遠回りになったとしても、自分で考える力を持った力強い若者に育ててほしい。</p> <p>(4) 月1回のケース会議の開催等、教育相談の組織的な体制が整っていることも評価できる。</p>